

# 金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」と当社方針との対応関係

金融庁 「顧客本位の業務運営に 関する原則」	ニッセイアセット「お客様本位の業務運営に係る方針」		
	方針	説明	2023年度具体的取り組み
<b>【原則2】</b> <b>【顧客の最善の利益の 追求】</b>	<b>【方針6】</b> 人材育成・企業文化醸成	<b>【方針6】</b> で企業文化醸成の取り組み実施し、お客様本位の業務運営に係る取り組みを従業員に浸透させております。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 顧客の最善の利益を追求するため、「ひたむきにその先を見つめ、より良い未来へつなぐ -A Good Investment for the Future-」というパーパスを策定</li> </ul>
	<b>【方針3】</b> 運用	<b>【方針3】</b> で継続的な運用力強化への取り組みとリスク管理の徹底を通じて、最良のパフォーマンス提供に努め、お客様の長期的な資産形成に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運用者が運用に集中するための環境整備等を通じた運用力の高度化</li> <li>■ 日本生命から当社へ移管した、クレジットとオルタナティブ投資の機能をもとに両社の運用ノウハウの融合を継続</li> </ul>
	<b>【方針1】</b> 商品	<b>【方針1】</b> で適切なファンドガバナンスを通じて、お客様の「長期的」「安定的」な資産形成に貢献する商品を提供します。 また、お客様のニーズを的確に把握・予測し、お客様にご満足いただける当社ならではの商品開発を実践します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2024年1月開始の「新しいNISA」制度における成長投資枠のファンドを86本選定</li> <li>■ ファンドラップサービス「Goal Navi」も新NISAに対応</li> </ul>
<b>【原則3】</b> <b>【利益相反の適切な管理】</b>	<b>【方針5】</b> 利益相反の適切な管理	<b>【方針5】</b> で 業務執行部門から独立した利益相反管理統括部署および利益相反管理統括責任者を設置し、利益相反の懸念のある取引の類型を定め、適切な管理を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 利益相反の懸念がある取引の管理が適切に実施されているか、利益相反管理統括部署が定期的に確認</li> <li>■ 利益相反の適切な管理についての取組みが従業員一人ひとりに浸透するよう研修等を実施</li> </ul>
<b>【原則4】</b> <b>【手数料等の明確化】</b>	<b>【方針1】</b> 商品	<b>【方針1】</b> で お客様にご提供する運用商品、お客様サービスに応じた手数料水準を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 確定拠出年金（DC）向け商品の信託報酬引下げ                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・DCニッセイ-REITインデックスファンドA/B</li> <li>・DCニッセイ新興国株式インデックス</li> <li>・DCニッセイ外国株式インデックス</li> <li>・DCニッセイ日経225インデックスファンドA/B</li> </ul> </li> </ul>
<b>【原則5】</b> <b>【重要な情報の分かりやすい 提供】</b>	<b>【方針2】</b> お客様サービス	<b>【方針2】</b> で全役職員がお客様の利益を第一に考えたサービスを提供するとともに、お客様サービスの向上に継続的に取り組みます。 また、お客様に最良の選択をして頂けるよう、お客様に合った適時適切な情報提供を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 「新しいNISA」制度を有効活用するための「Smart NISA」を紹介する「Smart NISA Labo」を開設</li> <li>■ ESG投信について組入銘柄のESGレーティングを月報に記載する等、開示を充実化</li> </ul>

# 金融庁「顧客本位の業務運営に関する原則」と当社方針との対応関係

金融庁 「顧客本位の業務運営に 関する原則」	ニッセイアセット「お客様本位の業務運営に係る方針」		
	方針	説明	2023年度具体的取り組み
【原則6】 【顧客にふさわしいサービスの提供】	【方針3】 運用	【方針3】で継続的な運用力強化への取り組みとリスク管理の徹底を通じて、最良のパフォーマンス提供に努め、お客様の長期的な資産形成に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ESGファンドが、定義に沿って適切に運用されているかモニタリングする体制を構築</li> <li>■ 責任投資原則(PRI)の年次評価で高評価を獲得</li> </ul>
	【方針1】 商品	【方針1】で適切なファンドガバナンスを通じて、お客様の「長期的」「安定的」な資産形成に貢献する商品を提供します。 また、お客様のニーズを的確に把握・予測し、お客様にご満足いただける当社ならではの商品開発を実践します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 2023年末時点でモニタリング対象60商品のうち、32商品は対応方針を決定済みで、8商品につきまして運用改善、繰上げ償還等の対応済み</li> <li>■ &lt;購入・換金手数料なし&gt; シリーズを拡充し、ニッセイ・S 米国株式500インデックスファンド等を設定</li> </ul>
	【方針2】 お客様サービス	【方針2】で全役職員がお客様の利益を第一に考えたサービスを提供するとともに、お客様サービスの向上に継続的に取り組みます。 また、お客様に最良の選択をして頂けるよう、お客様に合った適時適切な情報提供を行います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 投資一任運用サービス「Goal Navi」に「Smart NISA」機能を搭載</li> </ul>
【原則7】 【従業員に対する適切な動機づけの枠組み等】	【方針4】 経営インフラ	【方針4】で 独立社外取締役の招聘により、ガバナンス体制の独立性・透明性を向上させることで、お客様の利益を最優先する取り組みを推進していきます。 また、経営会議の諮問会議である「FDサステナビリティ委員会」を通じて内部統制の体制を強化するほか、「FD・サステナビリティアドバイザリーボード」を通じて社外の有識者の助言を受け、お客様本位の業務運営を推進していきます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取締役会からの諮問により、独立社外取締役3名に加え外部有識者からの助言を受ける「FD・サステナビリティアドバイザリーボード」を定期的に開催 テーマ例： ・パーパス／当社のFD取組みの全体像 ・当社KPIの現状及び「顧客本位の業務運営」の取組み内容をより分かりやすく伝える工夫</li> </ul>
	【方針6】 人材育成・企業文化醸成	【方針6】で企業文化醸成の取り組み実施し、お客様本位の業務運営に係る取り組みを従業員に浸透させております。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 人的資本経営の強化に向けて、人材要件定義と研修体系について検討を実施し、2024年度より開始するキャリア開発プログラムを策定</li> <li>■ 小学生を対象とした出張授業等、金融教育に関する取組みを実施</li> </ul>